

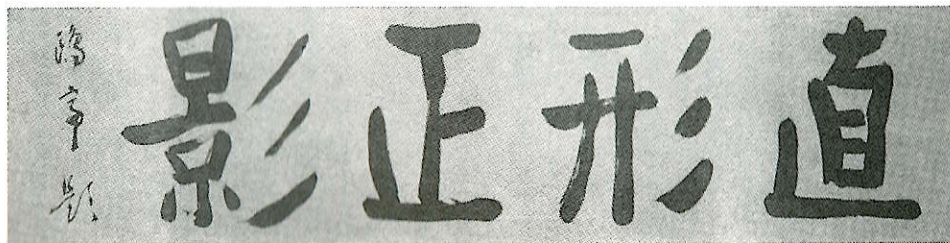
校訓



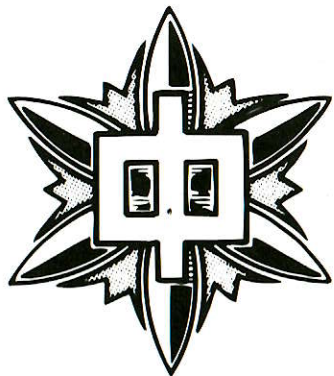
校訓の源流は「至誠」であるが、それを具象的表わした言葉が「敬愛互譲」であり、「直形正影」である。この言葉の精神を初代黒沢校長は座右の銘とされ、教育諸活動をおしすすめられた。

「敬愛互譲」は礼を尽くし、親しみを深め、互いの譲り合いの行動を通して、広い心と健やかな体に育つことを期待するという、学ぶものの根底に踏まえるべき姿を示し、

「直形正影」はことば通り、形、直しければ影も亦正しいという教える者のとるべき姿を示している、換言すれば「人の心は形に表れる」つまり人の精神はその人の行為、ことば、学道によく反映するものであると、個人の内奥に対決した厳しくそして不変の真理を秘めた訓えである。



校章



■校章制定

開校、日浅くして不安定な生徒の心に、いち早く学校愛と魂のよりどころを与えるべく制定された。創案者 当時本校教諭 納合秀夫氏。

六葉は雪を表わし雪国北方を意味する。葉は笹を表わし、北海道の熊笹は開発の将来性を示唆し、清
新な緑は希望と若さを意味します。葉間のWは稚内の
頭文字です。即ち湖北冷寒の地にあつて、常に希
望に燃えつつ親和と健康を保持し、無限の宝庫、北
海道の総合開発の文化的基底を担う人材の育成を指
向したものである。



■今年作成の校旗



50周年を記念しスクールカラーを基調に舞台旗として作成。

校旗



■校旗の作製

校舎内外の整備に追われて校旗作製に至らぬままに十余年を過ぎたが、四代校長沖野弥三吉氏は学校の象徴たるべき校旗のないことを遺憾とし、昭和三十六年教師、生徒共に五十円以上の募金により計六万円の募金を似つて京都の旗店に発注し作成された。